

事務 事業名	コード1	2150	スポーツ振興事業	課	体育振興課								
				所属班	体育振興班								
	コード2		健康体力づくりフェスティバルの評価	☒ 主要事業	電話番号	64-1132	内線	22					
政策 体系	基本方針	4	心豊かな人と文化を育むまちづくり		予算	会計			款	項	目		
	施策	6	生涯スポーツの振興		科目	一般会計			10	05	01		
	施策の展開	1	スポーツ・レクリエーション活動の推進		根拠 法令	特になし							
	基本事業	254	スポーツによる健康・体力づくりの推進										

1 現状把握(Do)

(1) 事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☒ 昭和 62 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全体像を記述⇒	・市民の健康体力づくりと、地域スポーツの普及。 ・スポーツを通じ市民交流の機会とする。 ・だれでも気軽に参加できる身近なスポーツを中心に開催する。 【業務の流れ】 ・起案⇒広報掲載⇒参加者募集及び協力団体への依頼⇒組合せ表作成⇒事前準備⇒開催⇒開催結果の作成

(2) トータルコスト

① 事業費の内訳(費目等)		単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
事業費	報償金、消耗品、食糧費	千円						
	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他一般財源	千円	148	143	148	167		
② 延べ業務時間の内訳		事業費計(A)	千円	148	143	148	167	0
人件費	正規職員従事人数	人	0.04	0.04	0.04	0.04		
	延べ業務時間	時間	80	80	80	80		
	人件費計(B)	千円	304	304	304	304	0	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	452	447	452	471	0	0

(3) 事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
	23年度実績(23年度に行った主な活動) ・健康体力づくりフェスティバル 種目 グラウンドゴルフ ティーボール ドッジボール 24年度計画(24年度に計画している主な活動) ・健康体力づくりフェスティバル 種目 グラウンドゴルフ・ティーボール ドッジボール	ア 参加者数	人	493	698	683	800		
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	イ 種目数	種目	3	3	3	3		
	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	ウ							
上位目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか	⑥ 対象指標名	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
	・市民がスポーツ活動に取り組み易くなる。 ・スポーツ効果(心身の健康・克己心・思いやりの心を育む。)を活かし、豊かなライフスタイルの構築に結びつける。	ア 小学生以上の人口	人	66,464	66,368	66,097	65,599		
		イ 人口を基にした参加率	%	0.74	1.05	1.03	1.22		
		⑦ 成果指標名(考え方)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
		ア 参加者を対象にしたアンケートの実施	人	未実施	未実施	未実施	400		
		イ 参加者数	人	493	698	683	800		
		⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
		ア 市内体育施設延べ利用者数(学校開放利用者数を含む)	人	266,800	228,500	165,500	250,000		
		イ							

(4) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か？どんな経緯で始まったか？	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか？	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
予てより開催されていた「県民の日スポーツのつどい」に加え、「体力づくりフェスティバル」として導入された。	事業導入以来、毎年開催されており、参加人数は増加の一途を辿っている。 子供たちは、学校以外で参加できる唯一の地域行事となっている。また、熟年者においても、活発な市民交流の場となっている。	特に、調査やアンケートは行っていないが、毎回参加者や関係役員より次回参加の申し出がある。

事務事業名	スポーツ振興事業 健康体力づくりフェスティバルの評価	課名	体育振興課	班名	体育振興班
-------	-------------------------------	----	-------	----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？ ・旭市総合計画の基本方針に結びついている。
	② 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ ・参加する世代に偏りがあるが広く参加が認められる。
	③ 行政関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？ ・市民が生涯を通じてスポーツやレクリエーションを楽しみ、生きがいと健康づくりに取り組み、誰でも気軽に参加できる体力づくりを推進するには、市が実施すべきである。
	④ 成果の現状水準	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？ ・目標を下回っている。 ・近隣市に類似した事業が無いため、水準については比較していない。
	⑤ 成果の向上余地	☐ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☒ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するかどうか？ ・スポーツ推進委員活動において、開設種目の見直しを行う。 ・開催に当たっての広報や募集方法を工夫する。
有効性 評価	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある ⤵ (1) 事務事業名：(市民スポーツのつどい) (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☒ 連携ができる ⇒【理由】 ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？ ・本事業(11月)と市民スポーツのつどい(6月)を開催することで、市民スポーツ活動の機会を減らさないことが、成果の向上と考える。
	⑦ 事業費の削減余地(表面トータルコストの事業費部分)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど) ・大幅な削減は期待できない。 ・開設種目を変更またはふやす場合、用具を購入する必要がある。
効率性 評価	⑧ 人件費の削減余地(表面トータルコストの人件費部分)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？ ・これ以上の削減は目的成果を阻害することになる。
	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ ・参加世代に偏りが有るが広い世代で参加が認められており公平公正と言える。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	高齢化社会が進む中、スポーツによる市民交流の場として果たして来た役割は大きい。また、子供たちが学校を離れ、地域スポーツの場に参加できる点は、生きる力を育む人間形成に大きく寄与する。 したがって、参加世代の偏りをなくす課題に積極的に取り組むと共に、スポーツ基本法に則り、スポーツ効果を活かす本事業を今後も維持していきたい。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可) ※2～3年後を目処にした方向性 ☒ 目的再設定 ☒ 事業のやり方改善による成果向上 ☐ 事業のやり方改善による事業費削減 ☐ 受益機会の適正化 ☐ 廃止・休止 ☐ 行政関与の見直し ☐ 事業統廃合・連携(関連事業) ☐ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減 ☐ 費用負担の適正化		
---	--	---